

アジア視察報告< 8 >

視 察 項 目	教育・子育て施策
視 察 日 時	2016年10月24日（月） 午後2時00分～3時30分
視 察 先 名	技能教育学院 （ITE：Institute of Technical Education）
説 明 者	ITE Education Services 行政補助員 Cindy Duan 氏
担 当	雨笠 裕治、露木 明美、月本 琢也



レクチャーの様子

【はじめに】

シンガポールは教育水準が高くICT等を活用するなど教育に対して国として注力していることで知られている。当初ICT教育について、国立教育研究所（NIE）や学校等を訪問し、現状について視察を行うことも検討していたが、幅広い分野にわたって実態社会に適合する人材を育成するために、きめ細やかな教育プログラムを実施している技能教育学院について視察することとした。高等教育の制度や職業訓練校の現状についてレクチャーを受けながら、日本の教育制度との違い、本市における職業教育について示唆をいただいた。

【シンガポールの教育制度と I T Eについて】

シンガポールでは6年間の小学校、4年間の中学校があり、その後の進学先の一つとして職業教育訓練校がある。中学校終了後25%の生徒が I T E（技能教育学院）に進学する。I T Eはキャリア、技術訓練を提供するシンガポール最大の国立の教育機関である。

I T Eには3段階の教育課程がある。中学校終了後の2年間の National ITE Certificate、次の2年間の Higher National ITE Certificate、更にその後2年から2年半の Technical Engineer Diploma となっており、Diploma の中には自動車関連、機械、調理の3つのコースがある。I T Eには3段階あるので十分な技能を学ぶことができ、卒業後はそれらの専門性を生かした職業に就く率が高くなっている。

I T Eは国内に3校あるが、こちらの I T Eセントラルキャンパスは2013年に創立した最新の学校である。この他に2005年創立のイーストキャンパスと2010年創立のウエストキャンパスがある。I T Eの制度は1つだが3つの学校があることになる。

セントラルキャンパスには I T Eのヘッドオフィスがある。3校に共通のコースもあるが、ウエストキャンパスはオートモービルと調理を専門にしている。イーストキャンパスは介護を中心としている。

3校合計の学生数は全日制27,000人で、定時制24,000人である。セントラルキャンパスは3校中一番規模が大きく、全学生数は、11,400人である。



セントラルキャンパス

【I T Eの教育理念】

3つの点を重視。技術、知性、精神力。

技術について、まずは専門の技術を磨くことが大切。

知性について、問題解決力、人間関係を築く力が大切。

次に精神力。精神力を鍛えるには学校の中だけでなく学校の外へ出て奉仕活動をしたり、ベトナムやカンボジアなど海外で橋を作ったりすることを通して養うようにしている。

それらの結果として、自信をもって生きていける包括的な生徒を育て、即戦力となる国際的な生徒を教育することを目的としている。

【I T E 3校の特徴】

想像力とイノベーションをテーマとしている。シンガポールではまれな、デザインとメディアのコースがある。

3校に共通してビジネスとサービス、エンジニアリング、電子工学と情報通信技術のコースがある。また、それとは別にそれぞれの学校にユニークなコースがある。

セントラルキャンパスには航空宇宙・太陽技術コース、工学設計・製造技術コースがある。この学校には実際の飛行機もあり修理など実体験をすることができる。

イーストキャンパスは企業とエンタープライズ、企業とイノベーションをテーマとしている。応用の科学とライフサイエンス、看護とヘルスケアサービス、ユニークなものとして美容と健康、物流倉庫のコースもある。

ウエストキャンパスはサービスとイノベーションをテーマとしている。ホスピタリティーに特化し、調理、サービス業、サービスイノベーションに関する各部門がある。情報室がありセキュリティについて学ぶこともできる。

3校合計で11の分野、101のコースがある。このプログラムを作るにあたっては、あらかじめ企業側のニーズについても情報交換し、そ

それぞれのコースを決めている。

すべてに共通するのは、実習によって学ぶことを重要なコンセプトにしていることである。飛行機の実物を使用した実習や、ファッション、フィルム作成、幼児教育のトレーニング、ショッピングモールでのフラワーアレンジメント、パン作成体験、ヘアーカット、救急医療体験、調理体験、レストランでのサービス体験、ホテルロビーでの対応などの実習ができ、実体験を大切にしている。



セントラルキャンパスでの学習



イーストキャンパスでの学習



ウエストキャンパスでの学習

【I T Eの特色】

I T Eは120社以上の企業と提携しており、実習できる場所を開拓し、企業に対しては能力開発の提起を行っている。さらに香港、韓国、オーストラリア、ドイツ、フランス、カナダ、アメリカなど、世界各国のいくつかの学校とパートナーシップを持っていて、交換留学を行っている。



海外との交流 企業との連携

【I T Eの目指す4つのゴール】

- ①適応性のある制度・ダイナミックなカリキュラム
- ②理論的に魅力のある教育学
- ③総合的な体験、包括的な学生
- ④戦略的な協力、情熱を持った人

これらを達成すると、自信のある包括的な学生、即戦力のある国際感覚を持った卒業生、情熱を持った熟練したスタッフ、パートナーとの協力や提携が身につくと考えている。



ITE のめざす 4 つのゴール

【質疑・応答】

Q 1 : いつ試験を受け、いつコースを決めなければならないのか。

A 1 : 試験は10月、結果が11月であり、合格した後にコースを決めることができる。なお、学校が始まるのは1月である。

Q 2 : 素晴らしい教育環境を備えた国立の学校だが、年間の学費はいくらか。

A 2 : 学費は97%が国負担、個人は3%であり、本人負担額は年間約1,600円である。

Q 3 : 就職率について。

A 3 : IT系で40%が就職し、その他は上級コースに進学するか兵役を担い、その後就職する。

Q 4 : 人気のある就職先について。

A 4 : まずは大企業である。次に成長しているシンガポールにある

海外の企業に人気がある。

Q 5 : 大学進学率 50% のシンガポールで専門性のある教育を行う意義について。

A 5 : 高度な教育についていけない生徒に対して、人材を開発し、技術を身に着ける学校として、1992年にITE（職業技術学院）が作られた。

Q 6 : 職業訓練校として学生のモチベーションを持続させる手立てはどのようにしているか。

A 6 : 様々なプログラムがあるが、多様な授賞式を行っている。世界大会で技術を競い合い、賞を獲得することによって技術を学び世界で通用するという自信がつく。自分に何ができるかを見極めることがモチベーションにつながっていると考える。

Q 7 : 途中でコースの変更は可能か。

A 7 : 年度途中にはできないが新年度には変更できる。

Q 8 : 先生は公務員としての正規教員か。

A 8 : ITEの先生は専門の現場に5年から8年の経験があることを条件に専門の講師として採用されている。

Q 9 : 101コースの中で人気があるコース、人気のないコースについて。

A 9 : 人気があるのは航空宇宙コース、人気がないのはエンジニアリングでレーザーを使って何かを作るコースである。

Q10 : 生徒等への職業選択に関する判断材料の提供について。

A10 : 中学校を訪問し、様々なコースがあることを教えているが、実際にどのような技術があるかを説明し、どのような職業に就

けるかを説明している。各職業に関する有名人の紹介を行うなど、その職業に親しみや就労を目指すにあたり希望を持てるように啓発を行っている。

【総括】

シンガポールでは全体的に教育水準が高いがGCE（教育認定試験）のトップレベルの者しか大学等の高等教育機関に進学できない。そこで高等教育に進めない子どもたちが社会で適応できる職業技術を養えるよう専門に学べる学校が求められ、このITE（技能教育学院）が作られたと考える。

日本では職業に就くために必要な技術や知識を学ぶ場として、各種学校や高等専門学校など実に様々な教育機関が存在している。各自で高額な授業料を負担し、そうした学校に通うが、シンガポールでは国が責任をもってこうした職業専門学校を設立し、学生に学ばせる環境を整備している。授業料も大変安価で国民なら3%の負担で年間1,600円程度とのことであった。しかも在学中にしっかりした技術を身に着けることで社会的信用性が確保され、社会に出たとき自信をもって働くことができるシステムとなっている。

これらの取組により若い人々の将来の生活を安定させることができ、国として安定的な雇用の人材創出に取り組んでいることがうかがわれた。

また、ITEに教育課程が3段階あることによって、それぞれの学生の職業訓練に対するニーズに柔軟に対応できるように考えられている。

しかし、この技能教育学院に進学しようと考えた場合、入学後のコース変更が認められているものの、若くして自分の適性を判断し早期に職業決定を迫られるという状況である。職業に対する早期判断が求められることで、判断の修正を必要とした場合、社会的落ちこぼれが生じないのか不安が残るところである。

シンガポールと本市・我が国とでは行政規模・行政機構の形や財政状況が大きく異なるため、比較は難しいが、経済力のあるシンガポールだ

からこそ国の責任で職業訓練をしっかりと行うことができているのではないかと考える。また、101のコースの設置についても企業側の意向を調査しながら柔軟に変更を行うことによって企業側のニーズにも対応しようとする姿勢が感じられた。

本市においてこうした学校を設立したり、学生の学費を補助したりすることは難しいが、国を挙げて職業訓練を行っていかうとする取組には学ぶべきものが多い。本市には市立の看護学校があるが国や自治体において職業訓練学校に対する支援を行い、子どもたちが将来について自信をもって生きていけるような取組をさらに進めていくべきであるだろう。また、普通科高校や小中学校においては将来を早期に展望できるよう職業教育の充実が必要である。中学校では学校の近隣で職業体験の実習を行っている学校が多いが、近隣ということでその選択の幅が狭いことが課題となっている。

今後、総合的な学習の時間を活用した各学校の取り組みが、子どもたちの職業観の育成により効果的なものとなるよう、今回の視察で培った知識を活かしながら、考察を行っていきたい。

